

南甲府署と親ぼくソフト 山梨ダルク



ソフトボールを通じて親ぼくを囲った山梨ダルクと南甲府署(11日)

民間の薬物依存症回復施設「山梨ダルク」(佐々木広施設長)と南甲府署は11日、中央市の豊富農村公園でソフトボール大会を開いた。山梨ダルクのほか、東京や神奈川など1都5県のダルク入所者、同署員など約90人が参加した。山梨ダルクでは、依存症回復プログラムの一環でソフトボールを取り入れ、週1回1時間半練習している。スタッフの毛利学雄さん(35)は「大会1カ月前は週3回、1回当たり2時間半練習してきた。県警にはダルクの活動を支援してもらい感謝している」と話している。ソフトボール大会は昨年7月、県警側が「依存症回復のために協力したい」と対戦を申し出て、初めて実現した。

↑ 10月16日 山梨新報記事

薬物断つきっかけに



依存克服施設とソフト試合

薬物依存を克服するための自助グループ「ダルク」と南甲府署員、県警OBが11日、中央市関原の公園でソフトボールの試合をして、共に汗を流した。今年で2回目。日本ダルク(東京)によると、警察とソフトボールで交流しているのは山梨県だけだという。

リハビリ活動で週に一度、ソフトボールをしている山梨ダルクが昨年、試合相手を探していたところ、県警が「再犯防止のために協力したい」と申し込んだのがきっかけ。

この日は、富士や埴玉など7都県から九つのダルクのメンバーが集まり、県警と合わせ約95人が参加した。試合は白熱し、滑り込みの生還やダイビングキックなどのプレーが出る中、敵味方関係なく拍手し、「ナイスプレー」とお互いを称賛した。

山梨ダルク主将の山本一彦さん(39)は「県警が同じ視線で交流してくれるのが、うれしかった。ぜひまた、一緒にプレーしたい」と話した。

南甲府署の一瀬博司生安課長は「一人でも多くの人にとって、薬物をやめる支えと動機付けになればうれしい」と話した。

↑ 10月13日 朝日新聞記事

県警熱戦で心の交流

握手で試合を終えた
ダルクチームと県警
チーム中央市関原